

## 2019 年度事業報告

1. 新たな国立公文書館の建設に関する要望と申し入れ  
2019 年 9 月 14 日の理事会にて、現在基本建設案が策定中の新国立公文書館に  
関して、外務省への要望と申し入れを理事長名で送付することを決議し、9 月 30  
日の送付を経て、11 月 1 日に外務省との意見交換を行った。

### 2. 会議、広報活動および会員数

#### (1) 会議の開催状況

##### (a) 評議員会

開催年月日	会議の内容
定時 6 月 22 日	(1) 議長の互選について (2) 2018 年度事業報告について (3) 2018 年度計算書類（2018 年度計算書類、附属書類〔計算 書類関係〕）について
第四回臨時 3 月 30 日 （電子メール による決議省 略）	(1) 2019 年度事業計画について (2) 2019 年度収支予算書について

##### (b) 理事会

開催年月日	会議内容
第七回通常 6 月 1 日	(1) 2018 年度事業報告（案）について (2) 2018 年度計算書類（案）（2018 年度計算書類、附属明細 書〔計算書類関係〕）について (3) 2019 年度定時評議員会開催について (4) 新入会員の承認 (5) 理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会に よる活動報告 (6) 2019 年度研究大会会場・業務委託に関する契約について

第八回通常 9月14日	(1) 2019年度学会奨励賞受賞者決定について (2) 「国際交流委員会運営規程」の改定について (3) 新入会員の承認 (4) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (5) 「新たな国立公文書館の建設に関する要望と申し入れ」について
第九回臨時 10月18日	(1) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 2019年度施研究大会実施状況について報告
第10回通常 12月15日	(1) 2019年度研究大会実行委員会会計決算について (2) 2019年度第一回臨時評議員会開催について (3) 新入会員の承認 (4) 理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告
第11回通常 3月22日	(1) 2020年度事業計画（案）について (2) 2020年度計算書類（案）（計算書類、附属明細書〔計算書類関係〕）について (3) 「執筆要領」「編集要領」「投稿論文審査要領」の改定について (4) 「学会奨励賞選考委員会選考手順」の改定について (5) 新入会員の承認 (6) 理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告

(c) 総会

10月19日、朱鷺メッセ／新潟コンベンションセンター国際会議場において会員総会を開催した。

(2) 各種広報活動の状況

実施月	実施内容	対象者	発行形態
5月10日	Newsletter 159号刊行	会員	学会ウェブサイト公開
7月30日	Newsletter 160号刊行	会員	
11月6日	Newsletter 161号刊行	会員	
2月4日	Newsletter 162号刊行	会員	

①Newsletter は学会ウェブサイトで公開している。

(<http://jair.or.jp/publication/nl.html>)

②Newsletter の目的は、評議員会・理事会・各種委員会・分科会・事務局の活動の現況と今後の方針について情報を発信するとともに、会員からの声を反映し、会員相互の情報交換を促進することにある。

③学会ウェブサイトを通じた情報発信も継続・拡充し、今期は刊行物の案内 11 件、理事会・委員会からの連絡 20 件、研究大会の関連情報 27 件、シンポジウム等の案内や公募情報 68 件、合計 126 件の発信を行った。

④会員に対する情報提供のサービスとしてメーリングリストを活用した情報提供を実施し、Newsletter の刊行や研究大会の報告者募集および学会誌への投稿募集などについて連絡を行った。

### (3) 会員数の状況

2019 年度新入会員 71 名

2019 年度退会会員 77 名

種別	人数
維持会員	0 名
一般会員	1,513 名
学生会員	295 名
シニア A 会員	91 名
シニア B 会員	63 名
家族会員	33 名
計	1,994 名

2020 年 3 月 31 日現在

## 4. 事業の成果

### (1) 継 1. 機関誌・書籍発行业

1. 和文機関誌『国際政治』197 号「国際政治と中国」、198 号「『ウィルソン主義』の 100 年」、199 号「国際政治研究の先端 17」、200 号「オルタナティブの模索——問い直す国際政治学」をそれぞれ刊行した。レフェリーによる厳正な審査を行うことによって、高い学術研究水準を確保すると同時に、199 号は独立論文号として特に若手研究者がその研究成果を発表する機会を提供した。

2. 研究成果の公開を一段と進めるため、独立行政法人科学技術振興機構が運営する電子ジャーナルの無料公開システム (J-STAGE) を活用して、すでに 200 号まで掲載されている『国際政治』のバックナンバーを今期は 192 号まで無料

公開した。

3. 英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific (IRAP)* については、Vol.19, No.2、同 No.3、Vol.20, No.1 の計 3 冊を発行した。投稿論文の掲載可否を判断するにあたっては、国際的なレフェリー陣による厳正な審査を行い、国際的学术交流の最前線として高い水準を維持した。

4. IRAP のインパクト・ファクターは 2016 年度には 0.676 であったが、最新版の 2019 年度には 1.233 に上がっている。

## (2) 継 2. 研究会・講演会事業

1. 10 月 18 日～10 月 20 日に朱鷺メッセ／新潟コンベンションセンターにおいて、研究大会を開催した。大会参加者は、参加者 515 人、懇親会 293 人であった。共通論題ではパネルディスカッション方式で「リーダーシップと国際秩序」を行い、通常部会 14、日韓合同部会 1、IRAP20 周年記念部会 1、分科会 28 企画となった。部会 13「東アジア国際関係の新展開——中国の台頭へのアメリカ、日本、フィリピンの対応」を市民公開講座として一般に公開した。

2. 研究大会における部会、分科会プログラムは添付資料の通りである。

## (3) 継 3. 国際学术交流事業

1. 海外における研究成果発表や研究交流を促すため、国際会議に参加する会員に対してその渡航費などの支援を行う国際学术交流助成制度を今年度も継続したが、新型コロナウイルス感染症の拡大により年度末の海外での学会が軒並み中止されたため、1 名の会員のみ助成を行った。

2. KAIS (韓国国際政治学会) との交流を行った。日本国際政治学会から 2 名の報告者、および佐々木理事長が 12 月 13 日～12 月 14 日に韓国 (ソウル市) における KAIS の研究大会に出席し、佐々木理事長が総会で日本国際政治学会を代表してスピーチを行った。また、日本国際政治学会の研究大会 (新潟市、10 月 19 日) では、日韓合同部会 “Japan, Korea and the Post-Cold War Era” を開催し、KAIS から 2 名、日本国際政治学会から 4 名が報告者・討論者・司会者として参加した。

3. 研究大会 (新潟市) では、日韓合同部会の開催について江草基金より国際研究集会開催助成を受けた。

4. International Studies Association (ISA)、WISC (World International Studies Committee) など海外諸学会の動向や学術情報を会員に伝えて会員の国際学術会議への参加を促し、諸地域・諸外国との学术交流のネットワーク構築に取り組んだ。

(4) 他 1. 研究活動奨励事業

2019年度の第12回学会奨励賞を、帯谷俊輔会員の『『強制的連盟』と『協議的連盟』の狭間で——国際連盟改革論の位相』(『国際政治』193号)に授与した。本賞は2008年度に創設されたものであり、前年度の和文機関誌『国際政治』および英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific* の執筆者のうち、40歳以下の若手会員を対象とした学会賞で、学会奨励賞選考委員会が選考を行う。受賞論文は国際的な政治学・国際政治学受賞論文を掲載する *World Political Science* 誌に学会から推薦されるが、2019年度は推薦後、同誌の廃刊が判明し、英訳の刊行には至っていない。

また、2018年度第11回学会奨励賞を受賞した佐桑健太郎会員、および帯谷会員による論文英訳に対して助成を行った。

5. 庶務の概要

(1) 役員等に関する事項

2019年度役員名簿 (アイウエオ順)

理事長 副理事長 理事	佐々木 卓也 大矢根 聡 飯田 敬輔 石川 卓 磯崎 典世 遠藤 貢 楠 綾子 都留 康子 潘 亮 宮城 大蔵 森井 裕一 山田 敦 山田 哲也	立教大学教授 同志社大学教授 東京大学教授 防衛大学校教授 学習院大学教授 東京大学教授 国際日本文化研究センター准教授 上智大学教授 筑波大学教授 上智大学教授 東京大学教授 一橋大学教授 南山大学教授
監事	遠藤 誠治 大島 (岡本) 美穂	成蹊大学教授 津田塾大学教授
評議員	赤木 完爾 大芝 亮 吉川 元 久保 文明	慶應義塾大学名誉教授 広島平和研究所所長 広島市立大学教授 東京大学教授

	國分 良成 古城 (久具) 佳子 酒井 啓子 添谷 芳秀 田所 昌幸 田中 明彦 中西 寛 李 鍾元	防衛大学校長 東京大学教授 千葉大学教授 慶應義塾大学教授 慶應義塾大学教授 政策研究大学院大学長 京都大学教授 早稲田大学教授
--	---	---

【一般財団法人 日本国際政治学会】

2019 年度事業報告・付属明細書

1. 一般財団法人 日本国際政治学会 2019 年研究大会プログラム

部会・共通論題プログラム

---

第 1 日 10 月 18 日 (金) 13:00~15:30

---

受付開始 12:00

午後の部会 (13:00~15:30)

部会 1 IRAP20 周年記念部会 “Competition and Cooperation in the Asia-Pacific”

Chair: Keisuke Iida (The University of Tokyo)

Speakers: Christina Davis (Harvard University)

“Competitive Liberalization Meets the East Asian Growth Model: The Evolving Trade Order in the Asia-Pacific”

William Kring (Boston University)

“How Has ASEAN+3 Financial Cooperation Affected Global Financial Governance?” (co-authored with William Grimes)

Saadia M. Pekkanen (University of Washington)

“China, Japan, and Governing Space: Prospects for Competition and Cooperation in the Indo-Pacific”

Midori Okabe (Sophia University)

“Migration Governance in the Asia-Pacific: On Institutionalization, Emergent Norms, and Redefined Borders”

Discussant: Takashi Terada (Doshisha University)

部会 2 「紛争研究のフロンティア」

司会 大林 一広 (一橋大学)

報告 伊藤 岳 (広島大学) “Why Does Ethnic Partition Foster Violence? Unpacking the Deep Historical Roots of Civil Conflicts”

浜中新吾 (龍谷大学) 「地上戦が引き起こす熱狂——『境界防衛作戦』時の旗下集結効果」

窪田悠一 (新潟県立大学)・大村啓喬 (滋賀大学)

“Wartime Service Provision and State Legitimacy: Evidence from the former FATA, Pakistan”

討論 小濱祥子 (北海道大学)

佐藤 章 (アジア経済研究所)

### 部会3 「グローバル公共政策ネットワークの意義と可能性」

司会 森井裕一（東京大学）

報告 庄司真理子（敬愛大学）「プラクティス・セオリーを超えて——規範の多極化、多元化、複雑化と IR/IL 研究の課題」

奥迫 元（早稲田大学）「グローバル化時代の国際理論に関する一考察——効果的で公正なグローバル・ポリティクスを求めて」

猪口絢子（大阪大学）「『ビジネスと人権』——サプライチェーンを通じた規範拡散」

討論 本多美樹（法政大学）

草野大希（埼玉大学）

### 部会4 「民主主義の後退と外部アクターの影響力」

司会 山崎 望（駒澤大学）

報告 中井 遼（北九州市立大学）・山本 直（日本大学）

「東欧における民主化の『後退』の比較研究」

舩方周一郎（神田外語大学）「ブラジルにおける民主主義の後退？——漸進的な政治改革とイリベラルな反動」

杉浦功一（和洋女子大学）「民主化の後退に対する民主化支援の影響力の考察」

討論 見市 建（早稲田大学）

上谷直克（アジア経済研究所）

### 部会5 「外交研究の新展開」（自由論題部会）

司会 田所昌幸（慶應義塾大学）

報告 西川 賢（津田塾大学） “The ‘Nixon Shock’: Japan, the United States, and the International Politics of the 1972 Whaling Moratorium”

毛利聡子（明星大学）「ESG 課題解決に向けたプライベート・ガバナンス——化石燃料ダイベストメントを事例として」

須田祐子（東京外国語大学）「個人データ移転に関する日 EU 合意——日本の『プライバシー外交』とトランスナショナルな『規制の政治』」

討論 田所昌幸（慶應義塾大学）

武田 健（東海大学）

分科会セッション A （15：45～17：15）別掲

分科会セッション B （17：30～19：30）別掲

---

第2日 10月19日（土）9:30～12:00, 15:30～18:20（共通論題）

---

受付開始 9：00

午前の部会 (9:30~12:00)

**部会6 日韓合同部会 “Japan, Korea and the Post-Cold War Era” 【英語で実施】**

Chair: Takuya Sasaki (President, JAIR / Rikkyo University)

Speakers: Yasuyo Sakata (Kanda University of International Studies)

“US-Japan-ROK Security Cooperation in the Post-Cold War Era: Is it the End of the “Virtual Alliance” ?”

Ihn-hwi Park (Ewha Womans University)

“The Post-War Northeast Asian Regional Security: Characteristic Features and the Korean Peninsula”

Seungjoo Lee (Chung-Ang University)

“The Evolution of Economy-Security Nexus and the Changes in Regional Order in East Asia”

Discussants: Isao Miyaoka (Keio University)

Tadashi Kimiya (The University of Tokyo)

**部会7 「コペンハーゲン学派の課題と展望 —— 『安全保障化』をめぐって」**

司会 小田桐確 (関西外国語大学)

報告 横田匡紀 (東京理科大学) 「日本の地球環境政策における安全保障化への課題——コンストラクティヴィズムの観点から」

今田奈帆美 (青山学院大学) 「EU 拡大における『安全保障化』の妥当性——リアリズムの観点から」

岸野浩一 (関西外国語大学) 「国際社会を支える諸制度の安全保障化と米中貿易摩擦——英国学派の観点から」

討論 山本吉宣 (新潟県立大学)

塚田鉄也 (桃山学院大学)

**部会8 「国際政治学における地域研究の意義を再考する—歴史と社会を重視するバイヤールの分析 枠組を用いて」**

司会 加茂省三 (名城大学)

報告 今林直樹 (宮城学院女子大学) 「J=F. バイヤールと歴史社会学——『アフリカにおける国家 腹の政治』を中心に」

片岡貞治 (早稲田大学) 「カメルーンの政治とバイヤールの分析」

森田豊子 (鹿児島大学) 「バイヤールによるイラン革命再考——イスラーム革命とテルミドールの状況」

討論 加茂省三 (名城大学)

月村太郎 (同志社大学)

## 部会9 「マルチラテラリズムとユニラテラリズムの相克」

司会 半澤朝彦（明治学院大学）

報告 政所大輔（早稲田大学） 「マルチラテラリズムは今もなお重要か——コンストラクティブリズムの視点から」

清水奈名子（宇都宮大学） 「国際機構におけるマルチラテラリズムの限界——グローバルな法の支配の行方」

熊谷奈緒子（国際大学） 「国際社会における法の支配——国際刑事裁判所に対するアメリカの一国主義の影響からの分析」

討論 五十嵐元道（関西大学）

星野昌裕（南山大学）

## 部会10 「日本外交と同盟」

司会 五百旗頭真（兵庫県立大学）

報告 佐々木雄一（明治学院大学） 『『帝国外交の骨髄』？——日英同盟と日英関係』

田嶋信雄（成城大学） 「日独防共協定・日独伊三国同盟・日独伊戦時同盟——インド・アフガニスタン・イランを焦点として」

佐竹知彦（防衛研究所） 「同盟の「ネットワーク化」——日米豪の安全保障協力」

討論 柴山 太（関西学院大学）

青野利彦（一橋大学）

## 部会11 「規範と国際政治」（自由論題部会）

司会 足立研幾（立命館大学）

報告 高橋知子（東京大学） 「国際規範への合意におけるレピュテーション——中国を事例に」  
CHEY Hyoung-kyu (National Graduate Institute for Policy Studies)

“For or Against the ‘People’s Money’: The International Politics of  
Renminbi Internationalization”

畠山京子（関西外国語大学） 「規範・アイデア・日本の安全保障政策——論争回避から説得へ」

討論 足立研幾（立命館大学）

兪 敏浩（名古屋商科大学）

## 分科会セッションC（13：30～15：10）別掲

総会 （15：10～15：30）

### 【共通論題】「リーダーシップと国際秩序」（15:30～18:20）

司会 遠藤 貢（東京大学）

報告 藤原帰一（東京大学） 「ポピュリズムと国際政治——国内政治と国際政治の交錯」

大串 敦（慶應義塾大学） 「プーチンのグランド・ストラテジー？——ロシアの紛争介

入を事例として」

白井陽一郎（新潟国際情報大学）「EUによるリベラル国際秩序？——その構想と手法」  
討論 松本佐保（名古屋市立大学）  
青山瑠妙（早稲田大学）

懇親会 19:00～21:00

---

第3日 10月20日（日）14:00～16:30

---

受付開始 9:00

分科会セッションD (9:30～11:00) 別掲  
分科会セッションE (11:15～12:45) 別掲

午後の部会 (14:00～16:30)

部会 12 **"Warping" in the Global Diffusion of IR Theories: Comparison of the Japanese and German IR Communities**

Chair: Tomoko Okagaki (Dokkyo University)

Speakers: Takahiro Yamada (Nagoya University) with Sho Akahoshi (Kwansei Gakuin University)

“How Has Japan Responded to the Globalization of IR Research?”

Mathis Lohaus (Free University Berlin)

“Diversity in IR journals around the world, 2011-2015”

Hiroaki Ataka (Ritsumeikan University)

“Global Knowledge Production and Critical Theory: The Case of Japan”

Discussants: Atsushi Yamada (Hitotsubashi University)

Tomoko Okagaki (Dokkyo University)

部会 13 「東アジア国際関係の新展開——中国の台頭へのアメリカ、日本、フィリピンの対応」  
(市民講座を兼ねる)

司会 細谷雄一（慶應義塾大学）

報告 森 聡（法政大学） 「ワシントンによる対中競争路線への転換——その要因と諸相」

高木佑輔（政策研究大学院大学）「フィリピンの対中政策の転換——小国の大戦略試論」

竹中治堅（政策研究大学院大学）“Prime Minister’s Leadership and ‘Free and Open Indo Pacific’ Vision: Responses to Changing International Environment”

討論 阿南友亮（東北大学）

細谷雄一（慶應義塾大学）

#### 部会 14 「中華人民共和国をめぐる自己イメージと外部イメージの相克」

司会 田村慶子（北九州市立大学）

報告 佐橋 亮（東京大学） 「アメリカの中国認識と政策展開——冷戦期から現在まで」  
横手慎二（慶応義塾大学） 「ロシア人の中国イメージ——社会学的研究と歴史学研究を基  
に」

小嶋 華津子（慶應義塾大学） 「自己イメージをめぐる相克——多様化する自己イメージと中国  
の外交」

討論 毛里和子（早稲田大学）  
庄司智孝（防衛研究所）

#### 部会 15 「北東アジア冷戦の再検討」

司会 川島 真（東京大学）

報告 清水 麗（麗澤大学） 「1960年代日米台関係と台湾政治構造の変容——信頼なき依存関  
係の深化」

高橋和宏（法政大学） 「ブレトンウッズ体制の変容とアジア冷戦——1960年代後半のド  
ル防衛をめぐる日米交渉を中心に」

高 賢来（ソウル大学） 「1950年代から60年代初頭にかけての米国の開発重視政策と韓国  
経済発展の初期条件の形成」

討論 鳥潟優子（同志社女子大学）  
梅本哲也

#### 部会 16 「国際社会における強靱性の検討」

司会 都留康子（上智大学）

報告 小松志朗（山梨大学） 「人の国際移動と感染症——2009年新型インフルエンザにおける  
国境管理」

市川 颯（東洋大学） 「EU エネルギー同盟の政治過程における気候変動規範の強靱性  
と脆弱性」

城山英明（東京大学） 「重層的多国間主義の強靱性」

討論 高柳彰夫（フェリス女学院大学）  
大平 剛（北九州市立大学）

#### 分科会プログラム

##### ◆10月18日（金）

##### 分科会セッションA（15:45～17:15）

A-1 日本外交史  
テーマ 自由論題

責任者 片山慶隆（関西外国語大学）

司会 片山慶隆（関西外国語大学）  
報告 鈴木 悠（東京大学）  
「日清戦争前の日英関係、1876-1894年」  
金 東明（東京大学）  
「日米韓安全保障協力の再開——三木武夫政権期における『韓国条項』の再確認」  
討論 片山慶隆（関西外国語大学）  
若月秀和（北海学園大学）

**A-2 理論と方法 I** 責任者 多湖 淳（早稲田大学）  
テーマ 関係性に基づく新たな IR を目指して——既存 IR の主体優位性と欧米中心視座を超克する  
司会 多湖 淳（早稲田大学）  
報告 清水耕介（龍谷大学）  
「三つの関係性と四つの時間性——理論的抽象化による世界観の違い」  
酒井啓子（千葉大学）  
「『埋め込まれた関係性』概念を導入した紛争と国際政治分析の提案」  
Lin, Wan-Ping（国立台湾大学）  
“Sinicizing IRT: A Post-Western Approach to Relational Theory of World Politics”  
討論 Chen, Ching-Chang（龍谷大学）

**A-3 国際統合 I** 責任者 武田 健（東海大学）  
テーマ 地域統合と対外政策による人の移動の自由への影響——AU・EU の考察  
司会 武田 健（東海大学）  
報告 中坂恵美子（中央大学）  
「EU の共通移民政策及び共通庇護政策と正規移動による人の受入れ——アフリカ諸国との関係で」  
片柳真理（広島大学）  
「アフリカの越境管理政策と地域統合」  
討論 岡部みどり（上智大学）  
今井宏平（アジア経済研究所）

**A-4 政策決定 I** 責任者 本多倫彬（キャノングローバル戦略研究所）  
テーマ 外交政策決定の意味  
司会 川島 真（東京大学）  
報告 信田智人（国際大学）  
「日本の政権交代と安全保障政策過程」  
猪口 孝（桜美林大学）

「多国間条約参加に見られる主権国家の政策決定」  
討論 川島 真（東京大学）  
宮本 悟（聖学院大学）

### 分科会セッション B（17:30～19:30）

**B-1 欧州国際政治史・欧州研究 I** 責任者 齋藤嘉臣（京都大学）  
テーマ 自由論題  
司会 君塚直隆（関東学院大学）  
報告 矢口啓朗（東北大学）  
「ロシアの外交政策と 1830 年代のウィーン体制における勢力均衡の機能」  
菅原健志（愛媛大学）  
「アーサー・バルフォアと日英同盟 1894—1923 年——イギリス外交における帝国防衛の観点から」  
討論 大原俊一郎（亜細亜大学）  
松本佐保（名古屋市立大学）

**B-2 理論と方法 II** 責任者 多湖 淳（早稲田大学）  
テーマ 理論と方法における先端研究  
司会 多湖 淳（早稲田大学）  
報告 岩波由香里（大阪市立大学）  
“The Restraining and Deterrence Effects of Alliances”  
浅野 壘（早稲田大学）  
「国連平和維持活動における犠牲者発生と要員撤退」  
宮下 豊（早稲田大学）  
「力・意志・感情——国家威信（政策）の 3 類型と現代日本外交への適用可能性」  
討論 石黒 馨（神戸大学）  
政所大輔（早稲田大学）

**B-3 平和研究 I** 責任者 上野友也（岐阜大学）  
テーマ 自由論題  
司会 上野友也（岐阜大学）  
報告 久保田雅則（大阪大学）  
「核不拡散規範の制度化——要因としての逸脱行為に着目して」  
山口治男（神戸大学）  
「重層的森林ガバナンスにおける各層のギャップと相互作用——インドネシアを事例として」  
討論 佐藤史郎（東京農業大学）

横田匡紀（東京理科大学）

- B-4 ジェンダー** 責任者 和田賢治（武蔵野学院大学）
- テーマ 武力紛争後社会の変容とジェンダー
- 司会 和田賢治（武蔵野学院大学）
- 報告 竹中千春（立教大学）  
「ジェンダーをめぐる人道的介入と平和構築の論理——ボスニア紛争の南アジアへのインパクト」  
藏田明子（大東文化大学）  
「アフガニスタンの平和構築における女性の焦点化とジェンダー秩序の変容」  
戸田真紀子（京都女子大学）・フォーチュネ・バイセンゲ（プロテスタント人文社会科学大学）  
「女性の政治参加と家父長制社会の変容——ルワンダと日本との比較」
- 討論 井上浩子（大東文化大学）  
武内進一（東京外国語大学）

◆10月19日（土）

分科会セッションC（13:30～15:10）

- C-1 アメリカ政治外交** 責任者 小野沢 透（京都大学）
- テーマ U.S.-East Asian Relations in the Jimmy Carter Years: Diplomacy and Global Transformations
- 司会 上 英明（神奈川大学）
- 報告 長 史隆（立教大学）  
“Evolving the Global Partnership: Multiple Significance of U.S.-Japanese Relations, 1977-1980”  
Sheng Peng (University of Oxford)  
“Jimmy Carter and China: Ideology, Security, and Cold War”  
Do Dieu Khue (Seoul National University)  
“Drawing the Bamboo Curtain: U.S. Relations with Asian Communist Countries in the Carter Era (Focusing on Vietnam, North Korea and China)”
- 討論 倉科一希（広島市立大学）  
上 英明（神奈川大学）
- C-2 東南アジア I** 責任者 五十嵐誠一（千葉大学）
- テーマ ASEAN の過去と現在——米国と中国の関与
- 司会 五十嵐誠一（千葉大学）
- 報告 崔 夏爛（大阪大学）

「ASEAN『中心性』の起源——1979年のASEAN拡大外相会議（PMC）設立プロセスに見るアメリカの役割」

Liu Hongyi（早稲田大学）

「東南アジアの非伝統的安全保障における中国の関与——自然災害をめぐる協力の見返りから」

討論

永田伸吾（金沢大学）

鈴木早苗（アジア経済研究所）

**C-3**

**中東**

責任者 松尾昌樹（宇都宮大学）

テーマ

ポスト IS 期のイスラーム主義と中東政治

司会

横田貴之（明治大学）

報告

溝渕正季（名古屋商科大学）

「対テロ戦争再考——ポスト IS 期におけるイスラーム主義と中東の謀略戦」

高岡 豊（中東調査会）

「イスラーム過激派の盛衰を分析する視角」

末近浩太（立命館大学）

「中東政治研究におけるイスラーム主義——逸脱事例・パラドクス・選択バイアス」

討論

宮地隆廣（東京大学）

**C-4**

**ラテンアメリカ**

責任者 舩方周一郎（神田外語大学）

テーマ

ラテンアメリカ・中国関係の新展開

司会

舩方周一郎（神田外語大学）

報告

岸川 毅（上智大学）

「中国の台頭はラテンアメリカに何をもたらすのか——中米諸国の事例から」

子安昭子（上智大学）

「変化する国際環境とブラジル・中国外交関係」

松田康博（東京大学）

「中国の対ラテンアメリカ政策——21世紀の言説と現実」

討論

村上勇介（京都大学）

**C-5**

**安全保障**

責任者 小谷哲男（明海大学）

テーマ

安全保障研究の諸相

司会

小谷哲男（明海大学）

報告

小林良樹（明治大学）

「米国等における『極右テロ』等の動向と我が国へのインプリケーション」

阪本拓人（東京大学）

「安全保障の言説分析——国連安保理における四半世紀の討議から」

濱村 仁（東京大学）

「核不拡散体制の階層性再考」  
討論 宮坂直史（防衛大学校）  
秋山信将（一橋大学）

**C-6 国際政治経済** 責任者 小川裕子（東海大学）

テーマ アジア太平洋の新たな国際政治経済体制

司会 小川裕子（東海大学）

報告 杉之原真子（フェリス女学院大学）

「『新冷戦』下の対内直接投資をめぐる選好の形成——米国の事例を中心に」

三浦秀之（杏林大学）

「TPP 参加をめぐる各国の動機と政策意思決定過程」

服部 崇（京都大学）

「日本の対アジア通商戦略——東アジア包括的経済連携（RCEP）協定の形成を中心に」

討論 古城佳子（東京大学）

勝間田弘（東北大学）

**C-7 国際交流 I** 責任者 馬場 孝（静岡文化芸術大学）

テーマ 自由論題

司会 牧田東一（桜美林大学）

報告 堀内めぐみ（元桜美林大学）

「情動からみる国際政治——創られた文化、創られる文化の観点から」

謝 辰（東京大学）

「戦後日本のアジア開発論——民主社会主義者蟬山政道を中心として」

討論 牧田東一（桜美林大学）

**C-8 トランスナショナル** 責任者 錦田愛子（慶應義塾大学）

テーマ 計量分析から見る移民／難民の移動 Quantitative Analysis of Migrants-Refugees

【英語による実施】（ペーパーは日本語または英語）

司会 錦田愛子（慶應義塾大学）

報告 青山弘之（東京外国語大学）

「シリア避難民を対象とした世論調査結果から読み解く対外意識」

“Poll Survey Analysis of the Recognition of International Relations by Syrian IDPs”

Tim Müller (Humboldt-Universität zu Berlin (HU))

“Bridging Countries along Refugees’ Transit Routes to Germany: The Effects of Transit Country Betweenness on Smuggling Fees, Negative Migration Experiences and Symptoms of Depression”

山尾 大（九州大学）

「送り出し国で難民はいかに表象されたのか——中東主要紙の計量テキスト分析から」

“Representation of Refugee and its Changes: Based on Quantitative Text Analysis of the Middle Eastern Newspapers”

討論 Joshua Rickard (熊本大学)  
浜中新吾 (龍谷大学)

**C-9 国連研究** 責任者 滝澤美佐子 (桜美林大学)

テーマ 国連の紛争関与と「平和」の提供国、受入国

司会 石塚勝美 (共栄大学)

報告 廣野美和 (立命館大学)

「紛争地における中国の役割の拡大——南スーダンコミュニティの視点と変容する国際秩序への意味合い」

久保田徳仁 (防衛大学校)

「国連 PKO の部隊司令官 (Force Commander) と同一出身国兵の犠牲者数」

討論 小林綾子 (上智大学)

山田真弓 (立命館大学)

#### ◆10月20日(日)

#### 分科会セッションD (9:30~11:00)

**D-1 欧州国際政治史・欧州研究 II** 責任者 齋藤嘉臣 (京都大学)

テーマ 自由論題

司会 齋藤嘉臣 (京都大学)

報告 細田晴子 (日本大学)

「スペインの地中海戦略——移民・難民問題を中心に」

和田 萌 (京都大学)

「フランス・メディアにおけるライシテ言説とムスリム表象」

玉井雅隆 (東北公益文科大学)

「欧州安全保障協力会議 (CSCE) プロセスにおける地中海地域問題の変容」

討論 松尾秀哉 (龍谷大学)

浪岡新太郎 (明治学院大学)

八十田博人 (共立女子大学)

**D-2 東アジア国際政治史 /** 責任者 家永真幸 (東京女子大学) /

**東アジア I** 加茂具樹 (慶應義塾大学)

テーマ 自由論題

司会 加茂具樹 (慶應義塾大学)



「米通商戦争のメカニズム——政権、選挙、国際理論の検証」

馬場一輝（立命館大学）

「日米・朝交渉モデルの検討——2002年・2004年日朝首脳会談を事例に」

福森憲一郎（日本大学）

「米国のICT政策における『重大局面』」

討論 山本達也（清泉女子大学）

山口 航（帝京大学）

**D-6 環境** 責任者 沖村理史（広島市立大学）

テーマ 国際規範と国際環境制度の諸相

司会 渡邊 明（福岡工業大学）

報告 高橋若菜（宇都宮大学）

「循環型社会をめぐる国際規範の国内受容の多様性に関する要因考察——家庭ごみにかかわる経済的手法を事例として」

沖村理史（広島市立大学）

「国連気候変動枠組条約体制の実効性——京都議定書とパリ協定」

討論 調整中

#### 分科会セッションD・E（9:30～12:45）

**D・E アフリカ** 責任者 杉木明子（慶應義塾大学）

テーマ アフリカにおける「国家」と「国家建設」をめぐる諸相

司会 杉木明子（慶應義塾大学）

報告 荒木圭子（東海大学）

「アフリカン・ディアスポラと自決権」

細井友裕（東京大学）

「何が国家を強くするのか？——現代アフリカにおける国家形成の比較事例分析」

堀江正伸（武庫川女子大学）

「人道支援の可能性——ダルフル紛争下の国内避難民キャンプでの考察」

討論 落合雄彦（龍谷大学）

佐藤滋之（早稲田大学）

#### 分科会セッションE（11:15～12:45）

**E-1 東アジアII** 責任者 加茂具樹（慶應義塾大学）

テーマ 冷戦終結後のアジア秩序構想の国際比較

司会 佐橋 亮（東京大学）

報告 加藤美保子（北海道大学）

- 「ロシアはアジア地域秩序への挑戦者か？——日米同盟観の変化に着目して」  
溜 和敏（高知県立大学）
- 「インドの国際秩序観における『拡大近隣』——中国との関係を中心に」  
玉置敦彦（中央大学）
- 「冷戦後アメリカの秩序構想——90年代における日米関係の展開とその影響」  
討論 菊池 努（青山学院大学）  
青山瑠妙（早稲田大学）
- E-2 国際統合 II** 責任者 武田 健（東海大学）
- テーマ EU の新しい政策アプローチ
- 司会 臼井陽一郎（新潟国際情報大学）
- 報告 小山晶子（東海大学）
- 「EUにおける移民の社会統合政策と庇護・移住基金（AMF）への新たな展開」  
福海さやか（立命館大学）
- 「コロンビアにおける EU 麻薬規制政策の展開」  
討論 臼井陽一郎（新潟国際情報大学）
- E-3 国際交流 II** 責任者 馬場 孝（静岡文化芸術大学）
- テーマ 自由論題
- 司会 馬場 孝（静岡文化芸術大学）
- 報告 川村陶子（成蹊大学）
- 「『文化外交』を超えて——日本とドイツにおける国際文化関係運営」  
加藤恵美（帝京大学）
- 「多文化が共生する地域社会は誰の社会か——川崎市ふれあい館の事例研究」  
討論 小川 忠（跡見学園女子大学）
- E-4 平和研究 II** 責任者 上野友也（岐阜大学）
- テーマ 保護する責任（R2P）概念の再考——R2P は終わったのか？
- 司会 中内政貴（大阪大学）
- 報告 西海洋志（聖学院大学）
- 「保護する責任（R2P）の『第 2.5 の柱』？——R2P 概念の系譜とリビア後の展開」  
中村長史（東京大学）
- 「超大国に息づく保護する責任——米国の APB 関連文書に着目して」  
討論 庄司真理子（敬愛大学）  
澤田眞治（防衛大学校）
- E-5 若手研究者・院生研究会** 責任者 石井雅浩（一橋大学）
- テーマ 自由論題

司会	大山貴稔 (九州工業大学)
報告	山口優人 (筑波大学) 「批判的テロリズム研究の現状と展望」
	金 鍾必 (青山学院大学) 「国家が核兵器開発を再考する理由」
討論	小林 誠 (お茶の水女子大学) 秋山信将 (一橋大学)

## 2. 和文学機関誌『国際政治』197号～200号掲載論文

『国際政治』197号	
川島 真	「序章 国際政治と中国」
早丸 一真	「一八六〇年代初頭における天朝の定制と外政機構の変動」
佐藤 悠子	「『中国』の核開発」
五十嵐隆幸	「一九六〇年代の『大陸反攻』と軍事戦略の転換」
熊倉 潤	「中ソ対立下の中国少数民族幹部政策」
兪 敏浩	「一九七八年尖閣漁船事件の研究」
河合 玲佳	「一九八〇年代日中関係再考」
横尾 明彦	「中国のG A T T加入交渉と価格改革のリンケージ・ポリティクス」
高橋 知子	「国際制度の交差に見る中国の国益」
徐 博晨	「中国の『対外援助』と『貸し過ぎ』問題」
書評:	葛谷 彩、鈴木 早苗、下谷内 奈緒

『国際政治』198号	
西崎 文子	「序章 『ウィルソン主義』の一〇〇年」
馬場 優	「オーストリア＝ハンガリー帝国の解体とウィルソン主義」
高原 秀介	「ウッドロー・ウィルソン政権の対ロシア政策」
大久保 明	「パリ講和会議イギリス代表団の『ウィルソン主義』」
細川 真由	「フランスの国際連盟政策と『ウィルソン主義』、一九一九―一九二四年」
秋元 悠	「ウィルソンの国際秩序思想」
大島由香子	「ウィルソン、ウィルソン主義と米ビザ制度」
番定 賢治	「国際連盟事務局における日本人事務局員」
草野 大希	「ウィルソンのリベラル介入主義の再考」
書評:	藏田 明子、池上 大祐

『国際政治』199号

玉水 玲央「オーストラリアとアンザス危機（一九八四—一九八六）」

篠崎 正郎「イギリス帝国の終焉と現地の危機」

油本 真理「腐敗防止の国際規範とロシア」

奥田 俊介「フォード財団と一九五〇年代のアフリカを巡る冷戦」

粕谷 真司「サッチャー政権初期イギリスと欧州政治協力」

<特別連載>

大矢根 聡「序章 日本の国際政治学——仕切られた対話からの共創」

泉川 泰博「第一章 日本国際政治学会の安全保障研究」

和田 洋典「第二章 日本における国際政治経済研究の特徴と課題」

井上 正也「第三章 日本の国際政治学における日本外交史」

上村 直樹「第四章 日本におけるアメリカ政治外交研究と『国際政治』」

<書評論文>

西村 邦行「なぜ思想史か——二〇世紀前半の今日性」

中谷 直司「戦前期の日本外交はなぜ一貫したか」

毛利 勝彦「グローバル・ガバナンス研究の最先端」

書評：清水 耕介、妹尾 哲志

『国際政治』200号

武田 知己「日本の『架け橋外交』戦略の戦前と戦後」

武内 進一「アフリカ研究者の紛争研究」

堀内めぐみ「国際関係理論はどこまで普遍性を有するのか」

張 帆「戦後日本の現実主義を再考する」

板橋 拓己「ドイツ統一交渉と冷戦後欧州安全保障秩序の端緒」

岡田 美保「日ソ国交回復交渉の再検討」

芝崎 厚士「日本の国際関係研究における『固有の課題』と『共有の方法』」

光辻 克馬・山影 進

「<複雑適応系>国際政治学の可能性」

内記 香子「国際政治における国際裁判所」

太田 宏「環境と資源問題をめぐる国際政治と日本」

書評：五野井 郁夫、篠田 英朗

3. 英文機関紙 *International Relations of Asia-Pacific*

Vol.19, No.2, Vol.19, No.3, Vol.20, No.1 掲載論文

*International Relations of the Asia-Pacific*, Vol.19, No.2

Hitomi Koyama, Barry Buzan, "Rethinking Japan in mainstream international relations"

Xiaojun Li, Adam Y. Liu, “Business as usual? Economic responses to political tensions between China and Japan”

Ji-Young Lee, “Contested American hegemony and regional order in postwar Asia: the case of Southeast Asia Treaty Organization”

Shoko Kohama, “Territorial acquisition, commitment, and recurrent war”

Lionel P. Fatton, “A new spear in Asia: why is Japan moving toward autonomous defense?”

Yun Yu, Ji Young Kim, “The stability of proximity: the resilience of Sino-Japanese relations over the Senkaku/Diaoyu Dispute”

Book Reviews

*International Relations of the Asia-Pacific*, Vol.19, No.3

John D. Ciorciari, Jürgen Haacke, “Hedging in international relations: an introduction”

Jürgen Haacke, “The concept of hedging and its application to Southeast Asia: a critique and a proposal for a modified conceptual and methodological framework”

Alexander Korolev, “Shrinking room for hedging: system-unit dynamics and behavior of smaller powers”

Adam P. Liff, “Unambivalent alignment: Japan’s China strategy, the US alliance, and the ‘hedging’ fallacy”

Darren J. Lim, Rohan Mukherjee, “Hedging in South Asia: balancing economic and security interests amid Sino-Indian competition”

John D. Ciorciari, “The variable effectiveness of hedging strategies”

Book Reviews

*International Relations of the Asia-Pacific*, Vol.20, No.1

Yichen Guan, Dustin Tingley, David Romney, Amaney Jamal, Robert Keohane, “Chinese views of the United States: evidence from Weibo”

H. D. P. Envall, “The ‘Abe Doctrine’: Japan’s new regional realism”

Dong Jung Kim, “Unfaithful allies? US security clients in China-led international institutions”

Hun Joon Kim, “The prospects of human rights in US–China relations: a constructivist understanding”

Weizhan Meng, Weixing Hu, “Reacting to China’s rise throughout history: balancing and accommodating in East Asia”

Research Note

Book Reviews